

89
3
141

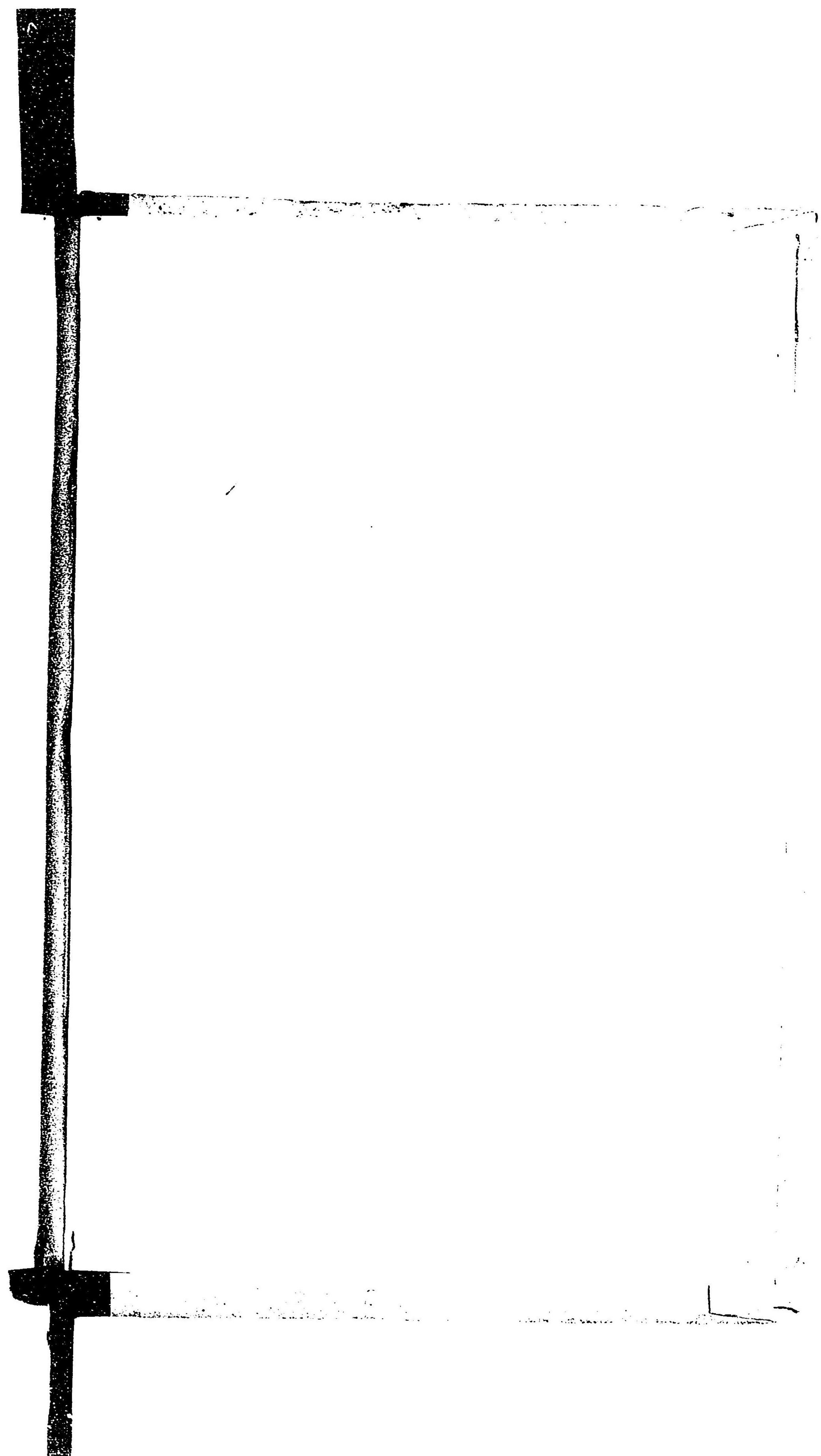
商 家 必 携

八
三
猿
金
泉
錄
全

伴源平編輯

志方登龍軒藏

9



特6
965

商 家 必 携

隨雲軒筆述

八
三
猿
金
泉
錄
全

志方登龍軒藏

三猿金泉錄序

の	の	れ	強	下	動	靜	大	三
利	切	は	氣	も	一	に	極	猿
と	現	其	の	天	動	し	動	金
含	て	内	功	地	一	て	て	泉
む	甚	に	現	陰	靜	陰	陽	錄
萬	安	弱	て	陽	互	を	を	序
人	な	氣	甚	の	に	生	生	
の	れ	の	高	め	其	じ	動	
氣	は	理	なり	ぐる	根	靜	事	
弱	其	と	り	る	と	成	極	
氣	内	含	上	お	成	事	極	
時	に	む	る	ごと	米	極	て	
の	強	弱	理	と	の	て	靜	
米	氣	氣	極	く	高	復	也	

上るべきの衰なり諸人氣強とさ
外米下る可きの種也是皆天生理
に心よせ予壯年の頃より米商
六十年来の日月夜工夫をめぐらし
の語を開き米商の定法を立一卷
の秘書を作り号て三猿金泉録と
米の形丸の陽也上下の角の陰な
り天地陰陽の氣を講四民をやし

なふ天下第一の寶也三猿と見
猿聞猿云ざるの三ツ也眼に強氣
變を見て心に必強氣變の測に勿
沈唯心に可合賣耳に弱變の測に沈
こゝろのかからば弱變の測に沈
洗事かかれ唯心に可合買強變を
見て弱を聞とも人に語る事なか
れ云ば人の心を迷は是三猿の秘
密也金泉録と此書の名也

木三猿金泉錄目次

○ 順乘變常十二平商

○ 家傳高安鏡

○ 三十八條商

○ 十五禁言

○ 轉變商圖

○ 半楸商圖

○ 安樂商圖

○ 萬歲運氣豐凶錄

○ 三猿極意

○ 智仁勇三德秘密

○ 世中上段の圖

○ 七福即生秘密卷

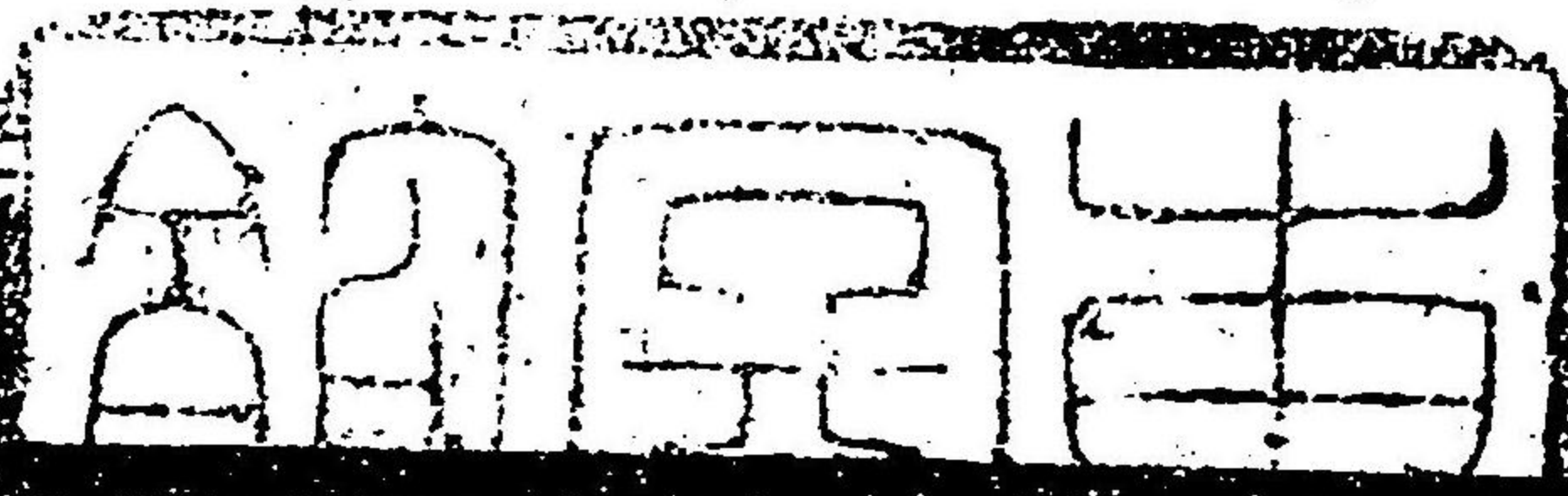
○ 三割上り三割下の圖

△ 十三條

凡例

- 一 此書中に何月と記すは皆舊曆の月と知べし又水無月の舊六月文月の舊七月名月明月と書たるは舊八月の事成べし
- 一 地名の内本書に江戸と書せられたるは今東京に改めたり
- 一 是今の人に見安からん爲に此かき直したり
- 一 金高本の書は向兩くと有しを當時のとさへ何圓と改めたり此等の事見る人察し玉へと云ふ

瑞雲軒登龍述



八三 撥金泉録

高安の理は空理に目お見へすのげも

うたちもささものう駄となり

王の御の心を考ふるよいつ下るども定らざるか
 密理也空理と見ると千餘に一度も商とる時節なし又句の心をかんぐへるにかけもあたもささものか駄と有は定式あり定式あれば商有佛道入定式と平常神道の定式の智仁勇の三徳皆夫々に定式有高安の定式の古米多く安段を新米へ寫したるとしのから腹上りある年なり是を順業の歳といふ古米少く

高直段を新米へ寫したるとしのかゝ腹下りあるとし也六七八月強變出れば正しくの腹下りの年なり是を變正のとしと云商の定式と逆平順乘の二つなり逆平とてあらし買に買也順乘とい上る理を正しく見付乘買に買を順乘といぬなり順乘變常十二のあらし商三十八の乘商十五乃禁言家傳高安鏡萬年運氣豐凶の錄を考て千度と千度まけざるの妙術誠に家傳乃たかゝり誣へしく

● 順乘變常十二平商

○ 古米多く豐年の高安順乘六旬

秋安くから腹上り豊割半霜月下りくれ上る旬

春そわり四五月上り水無月と文月の米下る旬なり

○ 順乘六旬商

秋て買から腹上り賣傳變霜月轉變くれの安樂

春轉變四五月の買五月未とたの種まき六七八のれ

○ 古米少く凶年の高安變常六旬

秋高くから腹下り豊割半霜月安く暮も上らず

春弱く順氣れとまの五月下水無月文月上る旬なり

○ 變常六旬商

秋のこたから腹下りに買半棟霜月安樂暮やとむべし

○ 家傳高安鏡

○順常秋冬の高安を考る歌

古米多く豊年と見て安米の腹上りのとまを知るべし

○變常秋冬の高下を考る歌

古米少く強變が出て高米の腹下りの年を知るべし

○順常變乘春の高安を考る歌

春下げとみて直の安き冬米のこるむかく安く成るべし

春上げと見て買上る冬の米春之中高く成べし

こる三月大高下なくすわり旬高の日とうり安き日と買

むわりには三平三乘半揀商高安どもに平乘禁せい

居りよと買轉變に買轉變としをよかそな標商安樂

○順常變乘五月高下考る歌

順乘のとしに極めて五月上旬五月下旬の變常のとし

大法の秋朋月の安と上げ五月下旬の高と上げあり

五月米人氣弱りて直の上る子と孫やゆで買とせん制

○順乘夏の高下を考る歌

歳明て春から五月高き米水無月又月下る年なり

○變常夏の高下を考る歌

歳明て春から五月安き米水無月又月上るとしあり

○三十八條商

順乘の歲の腹上りあり秋名月の買の種わけ

下さやか上さやある成頼かひりから腹上り徳のりにあへ
變常の年ねんのから腹下りあり秋名月の賣の種たねはけ
上さやか下さやか成る鞘さやがわりから腹下り徳のりよりうれ
下るべき米盛さかから上なるなりとくの有はと徳のりにかへ
上さやか下さやに成は益はんの米五月未すいから賣の種たねはけ
天性てんせいの利りの水無みづなに出るとしり高安ともよ米ふしたがへ
五月下旬けつご高くの賣の種をまさ六七月の徳とくのりにうれ
洪水こうずいと大風吹おほいぜきの飛たあがりあやふに成てとよの種たねはけ
米崩こを賈落城らふせう乃飛下こひさげのまだ目をふさぎ買の種たねはけ
米かれに賈落城らふせうの飛上りとひあるわけに成て賣の種たねはけ

五月米柔弱きよはくして直なへ上り四月下旬に買の種たねはけ
○強變現表けんへんげん表歲米可下種也
強變けんへんが現れ出れハ皆強氣了解かうげんなし買の種たねはけ
○弱理現世じやくりげん世歳ハ米可上裏也
弱現世じやくりげんに現れ出れハ皆弱氣何時なんじもて買の種たねはけ
強變の出る年をかりゑり出して二百十日に買の種たねはけ
○口傳くつでん万歳運氣ばんざいゆんき豊凶録ほうきゆうろくを考かんがへて強變有年けんへんありねんに二百十日よ
買の種たねをまくといふ歌うたの心也
上り足短あひだちくみゆるとしあらとんど強氣けんきを止て賣べし
秋は米から腹上り待まちうけて二割上りハ賣種うりたねをまけ

常よわら損徳しりぬ大だわはびんぼう神の産に成る也
秋の米から腹下げをまら請て壹割半から二割まで下げ買
米安く人氣もよわく我も又うり度どさが米の買旬
將軍の金づまりあらいつとても米にまたがひ賣の種まけ
米高く人氣も強く我もまたかいたき時ハ米の賣旬
將軍の御買上ならいつとても米あさかふて賣の種まけ
東京の飯米日々に貳万俵壹ヶ月にハ六十まん俵
大法が五月下旬の賣の旬初名月の買の旬なり
京大坂堺伏見の飯米と一ヶ月あひ拾五万俵
百年お九十九年の高安ハ三割越ぬものを知るべし

万人の心あさのふ米あらば連なき道へ趣くがよし
四季ともに鞘かわりはりの氣を傳じ高安ともよ米にまたがへ
懐に金もとやさぬ覺悟せよ金は米釣るばと知るべし
賣買と軍の備も同じこと米あさあいの軍兵の金
夜珠でも備を穿ぬ商ひの高下の變がわれを破るゝ
堤燈と釣鐘を見よ買と買かい徳多し賣損多し
買米を一度に賣と無分別二度に買へし二度に賣へし
賣買と徳のよりなる商ひの半株商のとくひ場としれ
いつとても二わり上つてハ九分一分千天元のうり旬としれ
いつとても三わり下りと米崩れ万天元の買旬としれ

● 十五禁言

備なき商ひならむといつとて損徳なしに商ひ禁制

大法が秋冬五月賣禁制春六七の買ひさんせい

凶年千入氣弱く我うよし高きよりて買と禁制

弱理世に競き出れを皆弱乘安らよよりて買と禁制

強襲が現れぬれば皆強氣高きによりて買の禁制

下る理と正しく思ふ米にても四月五月の賣の禁制

五月米入氣弱きに直上する字を孫々賣のさんせい

下る理と年よ取やうに思ふとも秋穂れ上のうりの禁制

天性の理の水無身も出ると煮れ米にしたがひ平商禁制

洪水と大風時の飛上りゆづれ年でも買の禁制

米くづれ買落城の飛下りの氣の弱くと買の禁制

米かれにはた落城の飛上を氣と強くと買の禁制

大黒天神秋明月

高買糖二平二乘

● 半探安樂商

○日傳曰秋明月商には此圖を定本として商とへし

左に記

合八百圓損米七十俵代金凡三十圓也敷金四十圓へ七十圓

の商也

四百圓買 三平 二十三俵

四百圓買 二平 二十二俵
一乘四百買

百圓買 一平 二十一俵
二乘四百買

百圓買 天元商 二十俵

十九俵 半掾ハ百圓賣

十八俵 安樂商ハ百圓賣

貳拾三俵商高八百圓半はんさうてく德米三百貳十俵十八俵安樂商德

米ハ六百俵損米七拾俵引德米五百三拾俵也十八俵にて傳

變へんとれを八百圓より成二百十日の商ひも此圖づを定規ていぎと

したるがよし

○家傳かでん五月下旬商賣たてさかあひまひに糖逆商二平一乘安樂商

六百圓 安樂商 德米百六十俵

貳拾俵内三拾俵損米引 殘百三十俵德也

百圓買 天元商 二十俵

百圓買 一平 拾九俵
一乘二百圓

二百圓買 二平 拾八俵

ハ四百圓賣損米三十俵代凡拾五圓也鋪金二十圓也

水無月下りの此圖づを定規ていぎととべし

西宮夷大神宮五月下旬順商賣うりてくにじやうてんべんあんらく糖二乘傳安樂商

メ四百圓賣

二百圓賣 二 飛

二十三俵轉變

八百圓買

内四百圓買次德米七拾俵 殘四百圓買持

百圓賣 一 乘 二十二俵安樂商

四百圓賣次德米四十俵 合德米百拾俵

百圓賣 賣楯天元

水無月商に此圖を定規せよ

● 轉變商圖

○ 賣楯轉變商

○ 千圓買

● 二千圓賣

○ 二千圓買

○ 千圓賣

○ 賣楯轉變商

右の圖の如く賣買を轉變と云也米の本筋に泥す當前の強弱
順が轉變の秘密

○ 口傳に由賣楯轉變賣楯轉變商の二商あり買楯轉變商の

仕方の上り足の米を見定ならば買を多く賣と少く商すれば安き日千圓を買五分一割高き日千三百圓賣て三百圓の賣成是を買楯轉變商と云也賣楯轉變商も右同意口傳に云賣方損商に簡違と思ふ時の早々見切轉變して強急と成べし一心忽地安樂にして必徳商と成へ芝買方の利も同意なり

衰々類

● 半採商圖

○ 買楯半楯商

銀のひやうしくつとを轉變商から白ふみとあれを

○ 賣楯半楯商

○ 千圓買

五百圓賣

○ 五百圓買

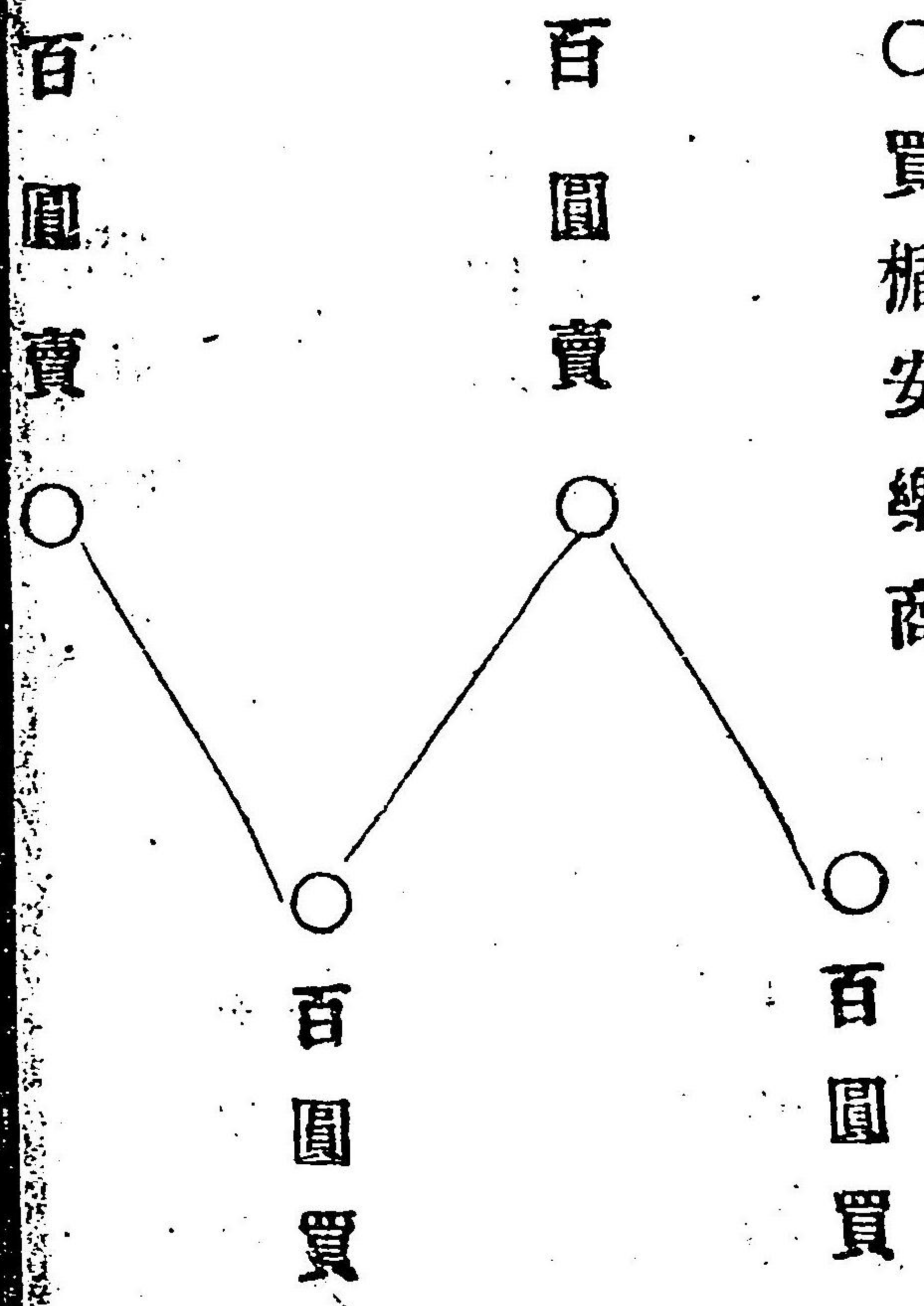
千圓賣

安日千圓買 五分或ハ一割

飛上り日商高 賣チ半分徳チ採

亦五分カ一割 下時節元ノ如シ

買取商仕方
 高下ニ有利徳
 天下ニ珍商也
 上下に氣のやせらかな半楮商ぬてもおろても徳と成る
 買楮半楮商也
 米ノ不失本
 正キ徳商ト可知
 ●安樂商の圖
 ○買楮安樂商



○買楮安樂商

右圖のとく米上り足なれを買楮安樂と定め安日買始め五分か
 一割高日不殘賣拂て徳を取る五分か一割下る時本の如く買取
 また高くなれば賣拂商の仕方を買楮安樂商といふなり賣楮安
 樂商の仕方も同意也半楮商より利徳多く常に一ツ心やすらか
 よして福徳圓滿の安樂とざるべし

○万歳運氣豊凶録

十二大風 二百十日三平二乘半珠安樂掛年なり
 甲子 丁卯 丁丑 辛己 甲申 甲午 丁酉
 丁未 辛亥 申寅 辛卯 辛酉

右十二年の中分の年也あうぶん也とし也としも木氣爵發もくきやくはつの變氣へんきあり七八月の間ま大風吹おほいぜうの大凶年おほいごふねんとなる變氣へんきなれを豐年ほうねんあり

○五洪水 右同斷

巳己 巳卯 巳酉 壬戌 巳亥

右五年の中分あうぶんの歲としあり然しかども十濕爵發じふしつやくはつの變氣へんきあり大洪水おほいすい田畑でんはたを破損はし大凶年おほいごふねんとある

○寒冷三年

乙丑 乙未 乙己

右三年の寒冷かんれい甚ししと歲としなれば中分あうぶんの世よの中なか也なり水氣爵發すいきやくはつ金氣きんき復かへりければ豐年ほうねんなり

○霖雨二年

癸未 癸己

右二年の寒氣かんき強つよく萬物ばんぶつ榮さかへがたし大凶年おほいごふねん也なり六七月火氣爵發くはきやくはつの變へんわれば豐年ほうねんと成なりあり

○極凶八年

丙午 丙子 丙寅 丙申 庚辰 庚戌 壬子 壬午

右八年の間ま壬午にんご子二年の極凶年也なり 丙辰 丙子 丙寅

庚辰 丙申 甲戌 右六年の六七月の間に火氣爵發くはきやくはつの氣きわれ

の豐年とあるあり

○二十八豐

秋明月三平二乘半揀安樂轉變商掛ル年也

戊辰	庚午	辛未	壬申	癸酉	甲戌	乙亥	丙寅	丁卯	戊辰	己巳	庚午	辛未	壬申	癸酉
壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉	庚戌	辛亥	壬子	癸丑	甲寅	乙卯	丙辰

右二十八年の勝復爵發の變氣も亦く大豐年あり志かきども六七月風も吹ず熱甚しけれをいねくさりウツカつくよしありよく考ふへし

○中豐 右同斷
壬辰 戊午

右二年ハ豐年といへども中分の歲あり

● 萬歲運氣豐凶録

○大汐小汐口傳

小汐とい六七八ト九ト十ト十一ト十二ト十三ト十四ト十五ト

右の外み亦大汐としれ小汐の三日目大事の日あり大風吹出そ日あり

○風吹不吹を考る秘密

庚申より十日目庚午より七日間大つち也丁丑の日間日也戊寅の日よ七日に小つち也甲申まで以上十五日の間ハ風吹ぬものといにしへより云傳へる故ハツチニ入と海上へ船を乗出

そ万まんじちかく一吹あいたの間あいたの日に吹也かえ夫も萬年に一年と考かんがべし

○大沙しほ小沙じほの時ときを知る歌うた

十五日晦日みづかひのま博ひろの六つむつふみちよるひるともあ九つここのにひく
さし汐しほの日ひ々に四分よんぶんつ、おそくみち引ひも四分よんぶんつ、おそく引也

●口傳くちでん 風かぜのまし汐しほに吹出ふし満汐まんしほに止とむものとしれ

○八專はつせん十二日じふににち壬子にんし々入い 亥たいに明あく

八專はつせんの入い日に雨あめがふり出でせバあくまでふるとかねて知しべし

○入梅にゅうばい 三十日さんじゅうにち

入梅にゅうばいと五月ごがつのはつ乃壬にんあいり六月ろくがつ壬にんにあくとあるべし

○虹にじ

朝あまさと大雨おほあめ降ありと思おもふべし夕日ゆふひの虹にじの日ひより也なりけり

○立雲たちぐも

立雲たちぐも赤あかとままるの風かぜとしき白しろき黒くろさの雨あめと知しるべし

○三猿さんざる極意ごくい

無極むごく

高安たかやすの利くわいの空利くわうりよて目めに見みへずかげもかたかたちもななささものか駭たい

大極たいごく

理りと非ひとの中ちゆうよこもれる理外りがいの理米りまいの高下かうげのみなもとしれ

陰舍陽いんげんやう

万人まんじんか万人まんじんああががら弱氣じやくきなら上あるべき氣きをふくむ米まいあり

陽含陰

千人か千人あがら強氣あら下るべと理とふくむ米あり

高安大法

大法か秋名月が安時五月下旬の高とうげあり

天性

高下とも五月下旬の天性の理の出る時どのねて知るべし

高定法

高下とも五分一割に随ひて二わり三割のふ利と忘れ

平乘定式

賣買の五分高下にてあらずべし乘るも同じく五分高下あり

賣買定式

買旬の端午明月米をぐりはたの水無月交月としれ

○智仁勇三徳秘密

有智無仁 勇真非智

有仁無智 勇真非仁

有勇無智 仁真非勇

智仁勇仁 徳理如鼎

●智仁勇三徳四十八ヶ條ノ歌

○智

順商と見定めたらば万圓も一手に●るが智の秘密也

商あきひをせかすい息がづまつつが仁じんさか●の勇理ゆうり乗るの智ちの徳とく
 まつ仁じんさかふの勇理ゆうりすゝむの智半おはん掾せん商の妙術めうじゆつとしれ
 天元てんげん商三平さんへいもみあやひあや薬やく乗るの正あやじち本商ほんしやうとしれ
 高下かうげとも五分一割の乗のがよし中ちゆうみ過とて乗るの損そんなり
 高下かうげとも長あき足あよと乗るがよし短かき足あよのるのぬけさく
 秋風あきかぜやから腹上りの旬ちゆうくれを金かねがわき出でる飛下ひげなり
 永無えいむ月の米こめのされめの高たかなぐれ青田あおた下くだりて飛下ひげ商
 五月ごご米人こめ氣きよよくくて直ちの上うす飛とげ商の旬ちゆうとしるべし
 上る利かも時とき至いたらねを上るまじ理りを非ひままげて米こめ飛と隨ずへ

○仁

賣買ばいばいをせかす急いそがす待まちむ仁德じんとくの乗のまで待まちむ仁の利り
 唯ただせくまませく商あきひは徳とくはあし五分安やすを買かひ九分高たかれられ
 うう買かひにせげせげせく程損ほどそんをするするとんと休やすんで手てをかかべて見みよ
 凶年けうねんの米こめのされめの高たかさぐままつて買かひのが仁じんのとく也
 唯ただせくな百俵ひゃくばう上あを百俵ひゃくばうのさげた例たれと多たき事ことあり
 買かひるるぎせぬが強氣つよきの秘密ひみつ也いつでもあきの日ひと待まちて買かひ
 賣うるるたせぬが弱氣よわきの秘密ひみつ也いつでも高たかき日ひを待まちて賣うる
 三平さんへいも二平にへいもいらぬ安直やすちたんせかすに買かひが大秘密おほひみつあり
 一平いちへいもいらぬ時節ときせつを待まちかよし唯ただせく故ゆゑあから日ひをふむ
 下る理かも時とき至いたらねを下るままささうりせきさるの夏あつれ虫むし也

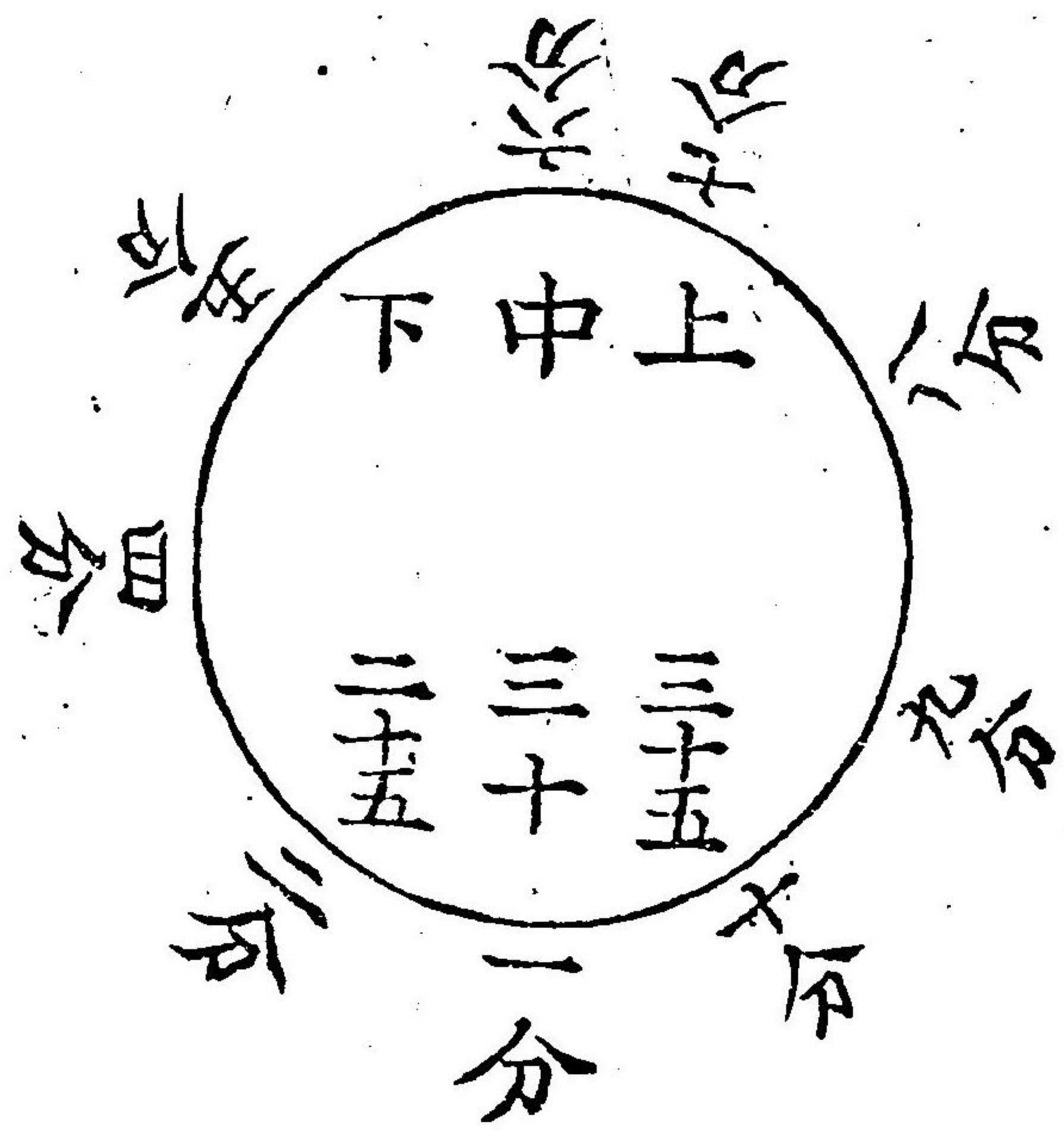
上は理も時どき至いたふねを上るまを大せきとるの大たわけあり
 せく故ゆゑに安きを賣て天窓あたまから高きを買てから白とふむ
 上るべき理有あり弱氣目よほ見へどうりせきとるの開めくら也
 上るべき利が盡つぎさぬれ心おのづから下る所の天性としれ
 下るべき下れと弱氣の理も盡て上る所が天性ぞかし
 風ふかぬ二百廿日の安直やすもん定式じやうしきとして待受てかへ
 万人がわたをばはてたる直の出るべとれが高下れ堺也けり
 雨風の日をまらうけて米をうれ日和ひよりをまつて米を買べし
 ○勇ゆう
 さから理の高きを賣て安を買米商ひの大ひみのあり

三わりの高下よさかふ商ひは金のわら出る泉とぞしれ
 ○三割高下不可恕可逆
 貳わりから三割高下の有とぶんいつでも米よさかふ理としれ
 ○損商不可恕可平
 損商も平商もみち釣のゑとはませて置て釣上るあり
 三割の高下の徳の轉變し損のあらすかひみつ也けり
 ○米崩大變不可驚可買
 万人が萬人あがら強氣ならさわけよ成て米を賣べし
 野も山も皆一面に弱氣ならわほうに成て米を買べし
 分別も思案もいらぬ買旬は人の捨たる米くばれなり

いつとても買浴城の米くづれと見ひ所を買かどく意
 豊年の崩る、米は買がよし高きを待て凶年やうれ
 唯米の人氣の弱き氣を買て人氣の強き日の賣がよし
 秋冬春二割高下よさかきべし夏と三割おさかふ理としき
 千人が千人弱き日は買へ万人のよき日にいうはべし
 ○ 三俵鞘不可恐可逆
 上る理と皆人びとをわめたる大さやもののはたの種まけ
 高下とも一割二分の大さやのいつでも米にさかう理としれ
 ○ 飛上不逆飛下可逆
 飛上の三日つゞきの高むぐき米よさかうて飛下をまて

右智仁勇三徳四十八ヶ條終

○ 世中上段の圖



右三段の法を以古くも年の世の中の吉あしを積る上分の十歳
 ともつゞく事あり

中分の世十年も續く事あり下の世九年も續く事有譬を中分の世の時節そのとしの世の中七分と積るよひ七よ三をかけ貳拾壹俵中黒と見るべし上下の世も是にかなじ

又法

毎年新米賣買初直段を以中黒と見て三わりを入れて法とせべし譬ハ直段貳十俵ならば三割の下り六俵入て貳拾六俵を法とすべし是其歲の變る法にて壹厘も不違法いつとても十二分の下り三わり十二分の上り三わりと考べし此法いつれ世ゆでも新米初直段七分七厘と見たてるとふじあり

○弱氣五の秘傳

- 一割半下ハ 百圓
- 二割下ハ 二百圓
- 二割半下ハ 四百圓
- 三割下ハ 八百圓
- 三割下ハ千圓にて貳千圓にて買べし

○第一秘傳

先心に其年の世の中十分と積り新米直段誠の外高思ひ慎に三割も下るべしとおもふと必く賣べらる壹割半下げを買か秘傳ありいゆのと志にても新米初直段を中黒と見るこれ秘事也譬を直段貳十俵あらむ貳拾俵を中黒と見て中黒よつ一わり半下り貳拾三俵にて貳百圓かい貳拾六俵にて四百

圓かいメ八百圓買持七拾俵の損壹割上ると百六十俵の徳なり

○第二

中あすみ貳十俵より貳わり半下り貳十四俵にて貳百圓買貳十五俵よてにて貳百圓買貳十六俵にて四百圓買買メ八百圓買持六十俵の損壹わり上の百六十俵のとくあり

○第三

中墨貳拾俵よつ貳割半下りの貳十五俵よて四百圓分買貳十六俵よて四百圓メ八百圓買持也四拾俵の損壹わり上る百六十俵のとくあり

○第四

中黒貳拾俵より三わり下貳十六俵にて八百圓買持壹割上りの百六拾俵の徳なり

○第五

中黒貳拾俵より三割半余下り貳拾六俵ならひ千圓にて貳千圓にて買べし一十六の運つためしと思めべし此上の下りの年二一ツのとく也

○強氣つよ五いっの秘傳ひでん

- 一割半上い 百圓買
- 二割上い 二百圓買
- 二割半上い 四百圓買
- 三割上い 千圓とも貳千圓とも賣へし

○第一

中墨貳拾俵の間壹わり半上拾七俵にて百圓賣拾六俵にて百圓賣十五俵にて二百圓賣拾四俵にて四百圓賣八百圓賣七拾俵損壹割下れの百六拾俵徳也

○第二

中墨貳拾俵より貳割上拾六俵にて貳百圓賣拾五俵にて貳百圓賣拾四俵めて四百圓賣八百圓賣七拾俵損壹わり下れの百六拾俵とくなり

○第三

中墨貳拾俵より賣貳割半上拾五俵にて四百圓賣拾四俵にて四

百圓賣八百圓賣四拾俵損一わり下れの百六拾俵徳也

○第四

中墨貳拾俵より三のり上拾四俵にて八百圓賣へし壹わり下れば百六拾俵の徳あり

○第五

中墨貳拾俵より三わり余上拾貳三俵を千圓めても万圓にても賣へし一六の運うんためしと思ふべし此上は上りの千二一の事なり

●七福即生秘あちかき密みつ卷まき

惣もろてとたんの三割下三割上との申せ共買方にて壹割の強つよみ

相見へい得共買方にとぐれさる事ならいつの年にも新米初直段を中墨と見て買へしうれ米商ひひよくを切てをみとへし

○強氣逆損商

逆損の商ひ二割迄と一割平し二わりの余ハ五分平也

中墨貳拾俵にて百圓買貳拾貳俵に成百圓買貳十四俵よて貳百圓買貳拾五俵にて四百圓買貳拾六俵よて八百圓買合千六百圓買持百六拾俵損壹わり上三百六拾俵とく也

○強氣一割上順得逆損

順商の商ひ五分平均也

中墨貳拾俵よて百圓買拾九俵とかま心お通し壹割上の拾八俵

よ賣すに貳拾俵の徳十七俵よて百圓賣十六俵よて百圓賣拾五俵よて貳百圓買拾四俵よて四百圓賣八百圓賣也七拾俵損壹割わがれを百六拾俵徳あり

若拾九俵に成さくバ百圓買貳拾壹俵よて百圓買貳拾三俵にて貳百圓買貳拾四俵にて四百圓買貳十五俵にて八百圓買合千六百圓買持也百六十俵損壹わり上れと三百廿俵徳也

○強氣壹割半の順得

中墨貳十俵よて百圓買壹わり半上り十七俵にて賣次三十俵の徳也則十七俵にて百圓賣十六俵にて百圓賣十五俵にて貳百圓賣十四俵にて四百圓賣合八百圓賣也七十俵損壹わり下と八百

六十俵徳也

○強氣順得商

中墨貳十俵にて百圓買貳わり上十六俵にて賣次四十俵得則十六俵めて貳百圓うり夫より段々下れ仕合なり必追賣致とべのらずまかし三わり上と云事あらを十五俵に成たらを亦貳百圓賣十四俵めて四百圓うり合八百圓うり也六十俵損壹わり下きハ百六十俵の徳也

○隨色の商

隨色の商の法の儘成思入あらを捨前左もなき時の高下有間鋪と思ふ時米俄に五分方七分方上りたる所をうり下りたる所

を買べし併是も百圓か貳百圓仕かけべし儘成事となく多くをるの手前の誤成べし隨色の文字にて見れを見立第一成べし

○とたん一六商

中墨貳十俵ハ三わり余下申時に三割余上り申時の常々百圓位を本お立て商をとる人も千圓にても貳千圓にても一六と思て仕掛べし三わり余の上と下りとも千に一上りとても千に一つ也

○立用商

立用に掛る商ひハ未々の米の高下前より能々相考仕掛可申也所々にて平物と違申事也立用の大商とほもの爲に大分

能事也其道理の五万圓も拾万圓も持など有時に賣次度思ふと
も賣出とどわきより退立六七分を壹俵も運事有故思ふようよ
出さぬなり此立用といふ事にて出やと事也

○とたん極意の巻

夫とたんといふ商と欲を切てとなとを極意となし小より大
にふるを順とを退商ひの根元也よくをもつてする時の千度ふ
千度あたる事あし

うぶく事極のまづか也静おして陰を生ず静ある事極の復動一
静巨は其根とある陰わかれば陽にわかれば三兩儀立陽變て陰
合して水火木金土を生ず五氣順却の四時行る五行の一陰

陽也陰陽の大極也大極の本無極也五行と生ざる也各其性を一
にそ無極乃真二五の精妙合して凝乾道の男を成し押道の女を
成し二氣交感して化生万物一化生して變化さわまりあし

● 三割上三割下り圖



此圖乃とたんの極意として中央の方圓を象て天地回り十の圖を四方と四ツの角を合て表とす十方買方にと日でり風雨の天災買へ利春夏秋冬よおひて強み可有事也利おやく賣方よ買への崩れをまつより外の事一利もなし故に此圖をあらわす買に一わりの剛み有之事考ふべし

○強氣の切

一風雨とげしき時の四季とも船の破損ふて東京大坂共に船間有べきと心得べし
一風烈しき時の四季共に出火といふ事有べし第一冬春と心得べし

一三四月より八九月まで此内に雨はげましく降時の洪水にて田畑破損の事考べし

一八九月の風の稲に當るべし冬の氣に入て少しもゆだねらざらぬもの也

一五六月の頃長冷と申時の年と秋の實入あしく

一八九月の頃長雨ふる時の稲にくさり入るもの也

一四五月の日でりの植付あしく

一四五月の頃もや霧あどかりると麥にあたるべし

一六七月の大風と惣て雑穀あたるべし

一六七月の日でりの惣て畑ものは當るべし

一世の中積りの事弱氣に入分とつもらば剛氣之六分とつめる
是互にまげからむし中きみ成べし

○右強氣の切如此また植付よまひでり雨風の天災もなく
十分の世の中といふと百年に一年ならでい有べからず
國に東西南北の寒國あり暖國あり風を東西南北より
吹たある國ありあたらざる國あり我國壹ヶ國の豊年
を見て日本國中よかるべしと必く思ふべからず惣て
て下直ある國と先上るものと考べし又買方よとよきあ
らし物と買上て米も上る理あり且賣方に天性の下を
待よ外一理もなし買よ一わりの強みある事よくく

考知るへし

○弱氣の切

大高のどしの上々より酒など御法度あるはひの運上など仰出
さると事あり其外金子御取上の事又町中へ御のんりやくを
仰出さると事も有べし少しの風を大破損のやうな偽買の
と致せし年の中積が強氣六分と積を弱氣八分と積るべし是
互に勝負あり

○右弱氣の切かくの如しつよき風雨のいひもて尤あれ

とも船よの船頭あり天氣を見合舟を出せば舟の破損も
まれ成もの也舟間あらば入舟多き筋あり冬春風はげ

ぎ時の出火も尤もつとせあれども米くろの藏くらあり藏くら之火ひの用慎ようじんの爲ためぬり其外長雨ながあめひでその事ことされ之其そのせほににたり我われ胸むねの内うちの積つりなり

○口傳くつでん卷まき

毎年初直段を中墨ちゆうぼくと見るが第一ひでんの秘傳ひでんまた中墨ちゆうぼくを買申かひまうが第二の秘傳ひでん正金百圓せいぎんひゃくえんの商あきなひひを本もとと立たてるが是第三ひでんの秘傳ひでんなり
一中墨いちちゆうぼくより壹いちわり半上はんじやうりを百圓ひゃくえん賣う是強氣じやうきの秘傳ひでんと心得こころえへし
一中墨いちちゆうぼくより一いちわり半下はんげを百圓ひゃくえん買かひ是弱氣じやくきの秘傳ひでんなり
一中墨いちちゆうぼくより一いちわり半上はんじやうりを百圓ひゃくえん貳にわり上じやうりを貳百圓にひゃくえん貳にわり半上はんじやうりと四百圓しひゃくえん三さんわり上じやうを八百圓はちひゃくえん買かひ是皆強氣みなじやうき新しん手の法ほふ也なり

一逆損さかどんの商あきなひの時中墨ちゆうぼくより貳にわりまで壹いちわりあらし其上そのじやうの五分ごぶんあらしがよし

一順徳じゆんとく壹いちわり半上はんじやうのあらし手てといつでも五分ごぶんあらしがよし右貳にツツの平均へいぎんためしの法ほふと家傳かでんの事ことなり

一壹いち俵たわあらしの商あきなひを家傳かでんに倍々まじくちやく地獄商ぢやくあきなひとあづく必かならずく致間鋪いたすまぢやう商あきなひひ也如何程いかほどの分限ぶんげんにとも成なるまじき商あきなひ也先中墨まづちゆうぼく貳に十じゆ俵たわまで百圓ひゃくえん買かひ貳に十じゆ俵たわにて百圓ひゃくえん買かひ貳に十じゆ俵たわあて貳百圓にひゃくえん貳に十じゆ俵たわにて四百圓しひゃくえん貳に十じゆ俵たわにて八百圓はちひゃくえん貳に十じゆ俵たわあて千六百圓せんろくひゃくえん貳に十じゆ俵たわあて三千貳百圓さんにひゃくえん買かひメて六千四百圓ろくにひゃくえん買かひ持も也六百卅ろくにひゃくしちじゆ俵たわ損壹そんわり上じやうれば千貳百八十せんにひゃくしちじゆ俵たわとく也正金千圓せいぎんせんえんあき内うちのあらざる商あきなひ

ひ也

一陰米陽米といふ事あり上る米を陽米といふ下る米を陰米と

いふ其理尤ある事也陰の濁つて下る陽のそんで上る故也

面白しく

一夫れとたんの極意に至らんと思はば先此書と案すべしかあ

らす此書おさがふ事なかれをみやかに勝事凝るままかし

予が工夫に及むざるの妙ある理もあるまどきあるあらざ

よくく工夫をめぐらせばしつゝまんで後の案者をまつの

み

一大坂長休日の後相立相庭前のとまを相場より高き時の景氣

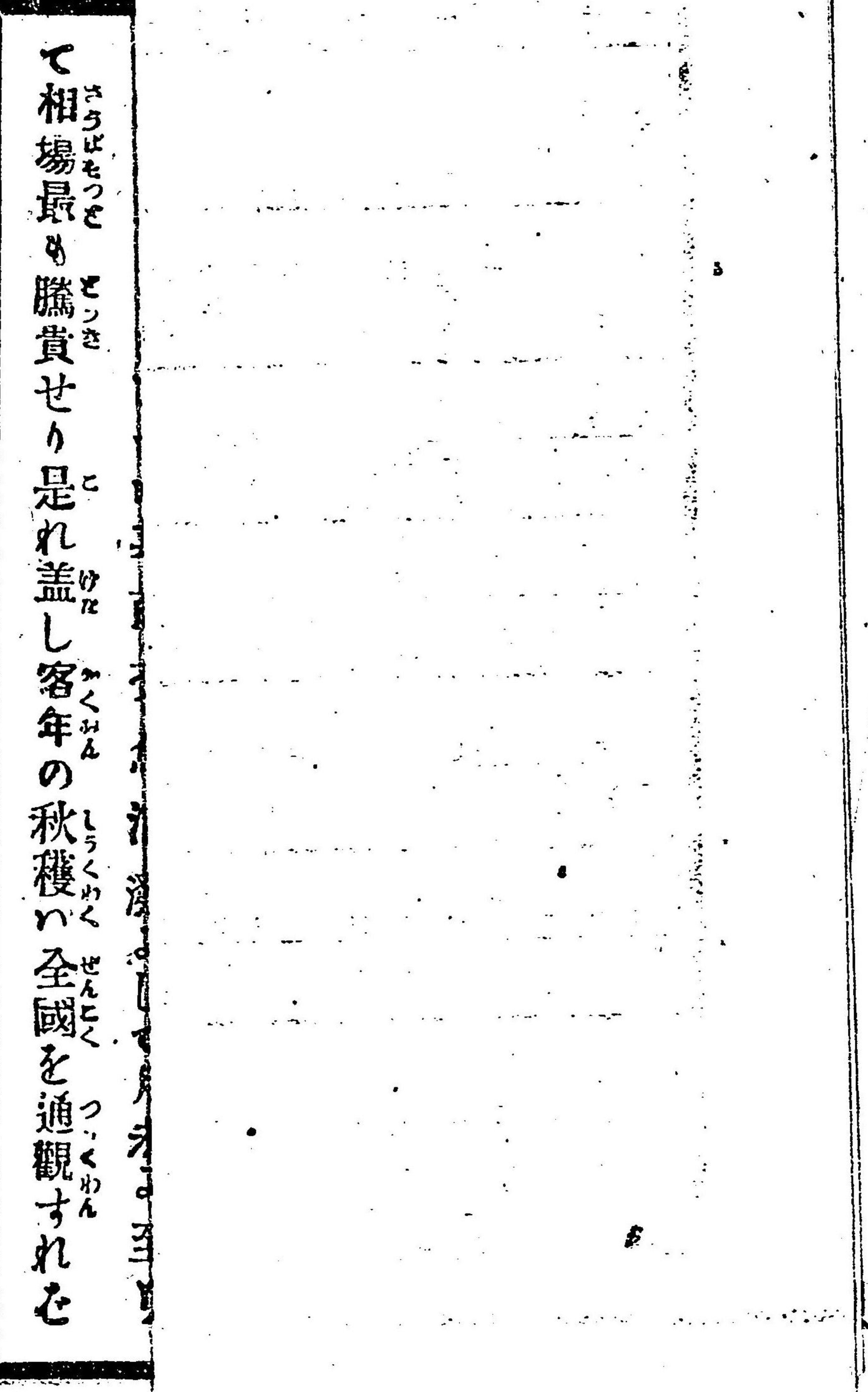
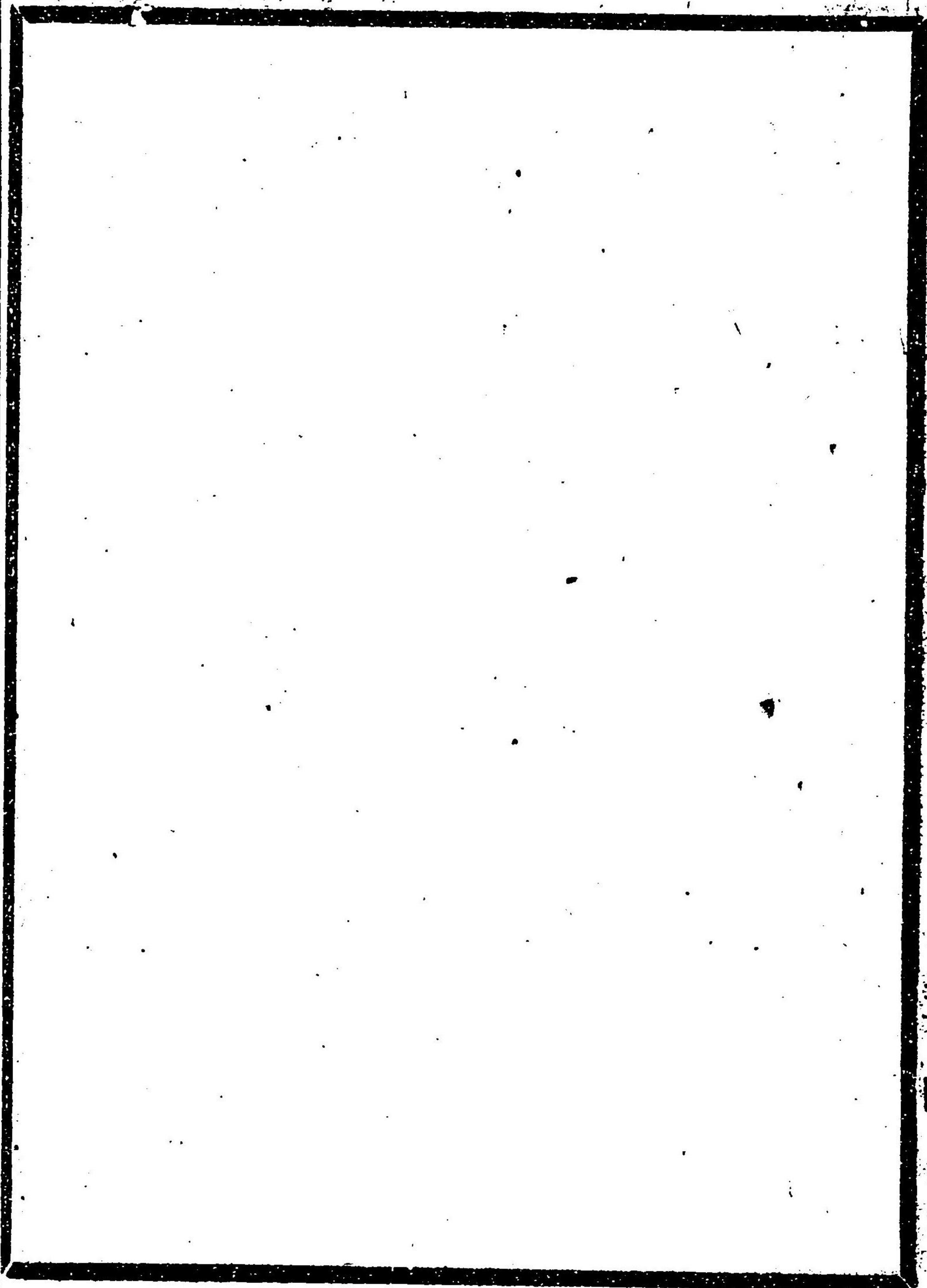
根強氣と知るへし

一東京大坂大きに高く常所も景氣よき事あつた三ッ揃いよ

く相庭大上り致し候得ば極て賣可申し安き事右に同玄

一新米初相庭之他所注文多き方にはき申し事よし

三猿金泉録終



て相場最も騰貴せり是れ蓋し客年の秋穫の全國を通觀すれを

三猿金泉録附録

明治元年より同十六年止る大坂堂島正米相場一覽表左に記す但し明治九年迄の肥後米が臺榭の津米を臺榭と高下の日々有といへ共其月々の平均を取て示すも乃其れ其心得て見るべし

明治元年迄の六十批較

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月
明治元年	七二四	七二四	九三六	一〇六〇	一〇三三	八四九	九一七	九一七	八一三	七六三
明治二年	七二四	七二四	九三六	一〇六〇	一〇三三	八四九	九一七	九一七	八一三	七六三
明治三年	七二四	七二四	九三六	一〇六〇	一〇三三	八四九	九一七	九一七	八一三	七六三
明治四年	七二四	七二四	九三六	一〇六〇	一〇三三	八四九	九一七	九一七	八一三	七六三
明治五年	七二四	七二四	九三六	一〇六〇	一〇三三	八四九	九一七	九一七	八一三	七六三
明治六年	七二四	七二四	九三六	一〇六〇	一〇三三	八四九	九一七	九一七	八一三	七六三
明治七年	七二四	七二四	九三六	一〇六〇	一〇三三	八四九	九一七	九一七	八一三	七六三
明治八年	七二四	七二四	九三六	一〇六〇	一〇三三	八四九	九一七	九一七	八一三	七六三
明治九年	七二四	七二四	九三六	一〇六〇	一〇三三	八四九	九一七	九一七	八一三	七六三
明治十年	七二四	七二四	九三六	一〇六〇	一〇三三	八四九	九一七	九一七	八一三	七六三
明治十一年	七二四	七二四	九三六	一〇六〇	一〇三三	八四九	九一七	九一七	八一三	七六三
明治十二年	七二四	七二四	九三六	一〇六〇	一〇三三	八四九	九一七	九一七	八一三	七六三
明治十三年	七二四	七二四	九三六	一〇六〇	一〇三三	八四九	九一七	九一七	八一三	七六三
明治十四年	七二四	七二四	九三六	一〇六〇	一〇三三	八四九	九一七	九一七	八一三	七六三
明治十五年	七二四	七二四	九三六	一〇六〇	一〇三三	八四九	九一七	九一七	八一三	七六三
明治十六年	七二四	七二四	九三六	一〇六〇	一〇三三	八四九	九一七	九一七	八一三	七六三

米相場高下表

明治元年迄の六十批較

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月
明治元年	八六五	八六五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五
明治二年	八六五	八六五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五
明治三年	八六五	八六五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五
明治四年	八六五	八六五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五
明治五年	八六五	八六五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五
明治六年	八六五	八六五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五
明治七年	八六五	八六五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五
明治八年	八六五	八六五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五
明治九年	八六五	八六五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五
明治十年	八六五	八六五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五
明治十一年	八六五	八六五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五
明治十二年	八六五	八六五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五
明治十三年	八六五	八六五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五
明治十四年	八六五	八六五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五
明治十五年	八六五	八六五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五
明治十六年	八六五	八六五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五	一〇四五

洋銀相場一覽表

右表中の印あるの閏月ありしを知るべし

右の明治元年より同十六年迄の洋銀相場一覽表あり但し洋銀一弗の我銀貨壹圓と同價なるを以て見るにたるべし又明治四年以前の何十文と申へたる時なれり今悉く之を錢厘に改めたり常々銀貨下なすの時の勢なれり既往の迹と就て之を考へし因て正米平均相場表と此表と對照せり其便

明治十七年中大阪堂島米相場景况表

茲に當地本年中の商況の概要と報せんに先づ歳首一月上旬にありては容秋の豐穰と例の不影氣の餘響を以て兎角不活潑の景狀ありしが當時現米上物の不絶輸出に需要ありまた各地に於て備荒貯蓄の買入ありし影響を以て其中旬よりして相場漸く上向の運又向ひ延て二月中旬に至るまで日を逐て昇進せり爾來三月四月の交ありては市況極めて平穩にして久しく保合ひの姿なれしが四月末頃より現米の取引稍々繁忙を催ち五月とあつては其商況愈活潑にして月末に至りて相場最も騰貴せり是れ蓋し客年の秋穫の全國を通觀すれば

固より稀有の豊穰するも當府近傍よりて之非常れ旱損を被り収獲極めて不登なりまゆへ勢ひ意に食料を府下より仰かざるを得ざるお至り其等の需要頗る急と要したりと當時氣候不順にて屢々暴風強雨等の患ありて大に麥作の結果を掛念せしよ由をり然るお六月に入りて前段の高價を見て各地方より頗る多量の輸入米あり加ふる各地麥作の如きも収獲前連日の天氣續きにて殆んど意表の豊収を見ゆるに至り從て彼の旱損地方の需用も次第に減少せしを以て爾來商況頗る轉換して日又低落の途に趣き七月とありて其勢ひ益々急激にして殆んど底止する所と知りざるが如き有様ありしが其中旬に際し霖

雨連日意に非常の洪水となり稻莖の被害太お少あらざるを以て一時意表の奔騰を來たせざるも幾あらずして復た下向の商況とあり逐次低落八月下旬に至りて意に其最低點に達せり其後偶々清佛開戦の報を得て稍々氣直りの含ある折柄其廿五日の暴風を以て太く稻作を害せしより人氣愈々立直り其月未お際し頗る活潑の商勢を顯はせしも當時客年の豊作尻を以て各地貯藏米の多澤あると且つ近年冬期お至りて米價頻りに低落するの例あるを以て未お確乎たる思惑人の顯はれず九月に入りて市況兎角お不活潑なりしが其中旬に至り累ねて非常の暴風雨お加ふるに氣候冷涼甚だ不順あるを以て愈々

秋收の結果を案じ人氣全く強氣に傾き相場次第に昇進せり然るも其後十月に入りて各地に於て備荒貯蓄の賣拂等あつて西國及瀬戸内地方より存外多量の輸入米あり加ふるに難波倉拂米等の影響を以て其中旬に至り一時甚だ不味の姿ありしも當時追々稻毛の買収に際し其收穫の見込よき遙に劣るを以て定期米の如き各地方より續々買注文の顯はれ從て其下旬頃より相場引續き昇進し十一月となりて商勢殊に活潑にして其月末に至るまで殆んど騰貴の一方に傾向せり然るに本年七八月の交より府下の金利非常の低落を示せしを共同運輸會社の創立に由りて運輸の便の増進せざるを以て大いに貨物

の幅濶を來し十二月上旬となりては市中の倉庫悉く梗塞し金利亦隨つて奔騰せり是故に一時米價の騰貴を制したる如き姿ありしが其中旬に至り圖らずも朝鮮争變の急報を達するや人氣忽地激昂し加ふるも彼の作劣りの影響を以て時既に歲末納税期に接するも新米の出廻り極めて薄く其景況全く例年に反せしより是迄該期を目的買扣へ居たる酒造家等の需要一時に幅濶せしを以て相場頗りも奔騰し遂に本年中の最高を以て其取引を終るに至れり

右の大坂府勸業月報抄録を以て米商の關係を考る者よくよく熟考して見るべし

明治十八年三月十七日出版御届
同 年五月 出版

定價二十五錢

編輯人 大坂府平民 伴源平

出版人 同府平民 赤志忠七

賣 大坂堂嶋中二丁目 畑中吉兵衛

所 西京寺町通四條上ル丁 田中治兵衛
東京銀座四丁目 博聞本社

豫約廣告 既製本出來

陶山直良編輯 袖珍 廣益 會玉篇大全 薄用摺絹表 紙銅刻美本 全一册

定價七十五錢千部 限豫約特別廉價 前金四十五錢 郵便稅拾貳錢

右之書ハ緊要ノ文字ヲ凡三万猶余蒐集シタル大全
ナレハ必用ノ文字ハ一字トシテ洩タルハナシ頭書
ニハ熟語ヲ摘出シ之ニ註解ヲ附シ字義ヲ明瞭コシ
初學讀藉ノ諸君ニハ不可欠ノ良書也且旅行航海便
利ノ爲巾箱ニ本製レタルハカハンエ入レルニ輕便
ニシテ實ニ袖珍廣益ノ名義ニ不背ノ善本ナレハ陸
續御愛求玉ハンコ希願

繪本太閤記稚話 全拾冊

至初篇 從十篇

初篇 日吉九誕生の條より木下藤吉郎廷旗の謀計よて美濃勢を破る條迄三十七條

貳篇 千生瓢單の由來瀧川一益桑名を奪條より光秀池田の城を責る條迄三十三條

三篇 信長公上洛堺町人の軍評定木下智計磯野勢を破り阪井久藏打死の條迄廿八條

四篇 姉川合戦木村又藏勇刀淺井勢敗軍より初柴秀吉中國出陣三木城合戦の條迄卅二條

五篇 織田軍勢中國後結播州江發向の條より信長公武田勝頼と合戦の條迄廿六條

六篇 惟任日向守信長公を再三恨むる條より秀吉京都の變使を捕る條迄廿二條

七篇 安國寺惠敬高松城に趣和陸取結の條より秀吉公光秀山崎大合戦の條迄十六條

八篇 齊藤内藏之助勇戦筒井順慶裏切の條より光秀打死織田功臣關國配分の條迄廿三條

九篇 大徳寺燒香織田の臣前後争の條より賦ヶ嶽合戦中川瀬平決戦打死の條迄廿五條

拾篇 七本鎗の高名小田原陣奥州征伐の條より太閤關白昇進天下一統の條大尾

右の小形巾箱本銅板毎丁畫入平かな早わりの讀本にて惣丁數四百枚有余十篇揃にて大尾

定價壹圓五十錢 千部限別格廉價 前金七拾五錢 郵税四十錢通運 便にても送本を

同 西洋綴 十篇揃全十冊を合本にして二冊 綴金文字入の美製本

定價金壹圓五十錢 千部限り別格廉價 前金七拾五錢 郵税

繪本楠公記稚話 三篇揃全三冊 既製本出來

定價金四十五錢 千部限り別格廉價 **前金貳拾二錢** 郵便税十二錢

同 西洋綴 三篇揃全三冊と合本にして壹冊に綴金文字入美製本

定價金五十錢 千部限り別格廉價 **前金貳拾五錢** 郵便税十二錢

此本の正成公一代忠戦の物語にて湊川打死迄の事平のあがさにて毎丁畫圖を加へたる早わかきのおもえろさ繪本也

曲亭馬琴翁著

昔語質屋庫 活版洋とし 銅版美畫入 **全一冊**

紙數百八十餘へし ○郵税十四錢

定價金五十錢 五百部限り別格廉價 **前金貳拾五錢**

右製本既に出來居候前金着直お送奉可致候部數賣切後の定價に引直る候六月三十日限

大坂本町四丁目

豫約申込處 赤志忠七

書引 **改正商賣往來** 銅版粉色入 美本全壹冊

○定價拾五錢 ○正價拾錢 ○郵税四錢

此本の商家日用ノ文字ヲ始メ内外諸物品ノ名稱等ヲ編輯シ是ニ繪畫ヲ加ヘ猶詳明ノ爲註解ヲ附シ現今字体共一目瞭然確了スルヲ得セム方今商業ニ志ス諸彦此書ヲ一讀セハ其益ノ莫大ナル亦他書ノ類ニアラサルベシ

頭書作
文摘語

書引註解千字文

小本銅版
美書全壹冊

○定價十五錢 ○正價十錢 郵稅四錢

此書ハ本邦ニ來舶ナスト最ト古クシテ既ニ流布
ノ衆人之ヲ讀習スルコト久シ然ト雖モ訓點註解ヲ
加ル書少ナシ今茲ニ現童ニ分リ易キ爲字句ニ依
テ繪畫ヲ加ヘ是ニ註解ヲ附シタレハ即ニ依ラ本
書ノ獨リ分ル大重法ノ良本也

小學生徒必携

中本全壹冊
正價八錢 郵稅六錢

此本ハ小學指教圖并ニ講解十千十二支人名苗字
口上日用書類庶物名數内國名盡改正商賣往來千
字文等ヲ合本ニシテ小學生徒ハ元ヨリ幼童ニハ
實益無類ノ書也

六

八文合自笑翁詞 ○式亭三馬與戲作

三府客者評判記

全三冊 定價三十五錢
正價廿錢 郵稅拾二錢

此本ハ今世滑溜の名入式亭三馬翁の戲作にて三
府の大芝居見物人品評の位定男女の穴さおしに
して其癖によりて大上々吉又ハ大吉と位を附夫
れニ評判を附て役者評判記同様の見立本おれを
當せ醉をもつて廣く人情に通じ集會或ハ懇親會
にても此本心得て置を如何成老妓も三社をさけ
通さん頂戴といわせる奇々妙成通人心得の善本也
南紀柏木覺深淵撰述 ○全男大祐校正

本命星 本命的煞精義

銅刻小形全三冊 定價
四十錢 正價廿五錢

本命星といふハ兩般也所評本名星也
本命といふハ兩般也所評本名星也
本命といふハ兩般也所評本名星也
本命といふハ兩般也所評本名星也

七

此精神年月日時。四課に據る此方を稽首し祭祀それ
を。幸福を志發と又是に反して轉居信造動土伐木等
よして破り犯せば精神敗壞す茲よわいて本命的煞
を知て尊敬されバ子孫亦至る迄幸福長壽を得るハ
此書を閲して其虚にあらざるを知るべきの大秘書也

元祖聖德皇太子。○中祖水野南北居士著

南北相法

前後全十册定價壹圓廿五錢
正價壹圓

此書ハ先生一代に三人相ノ實際經驗自中ノ口傳ニシテ
高驗話眼神ノ如ク相者ニ不限一讀アレハ其益莫大ナルヲ
平澤白翁先生口授

人相千百年眼

全五册定價六十錢
正價四十五錢

此本ハ相法ノ經驗ヲ悉ク記シタレバ此書ヲ見テ
相鑑スル時ハ妙察神ニ入ルガ如キ妙書也

井田龜學先生著

相學辨蒙

全二册定價三十錢
正價廿四錢

人相ノ本澤山有ルト雖トモ此ノ書ニマサル本ナ
シ索人ニテモ此本ヲ讀メハ人相ノ善惡ハ直ニ分
リ又惡相ニテモ其心得ニテ益々福相ニナレル奇
妙ナル良本也

平澤先生口傳

宅方明鑑

小本全二册
正價十八錢郵稅十錢

此書ハ家宅建屋ノ極意ヨリ本命的殺スヘテ家相
ノ吉凶事ニ至リテハ聖賢ノ明教ハ此ノ二卷ニ畫
セリ實ニ海内無双ノ明鑑ナリ

安部 晴明秘傳錢占袖鏡 小本全壹册 正價八錢郵稅四錢

此本ハ銅鏡ニ文ヲ以何事ニ依テ吉凶ヲ占ノ時ハ其ワケガワカリテ又日々商内賣買ノ事モ考テス
ソハ損スル事ナシ實ニ神通ヲ得シ如キノ妙書ニ
テ安部晴明一代ノ吉凶占モ此書ニ限ルベシ

通機圖解 中本全壹册 正價十錢 郵稅六錢

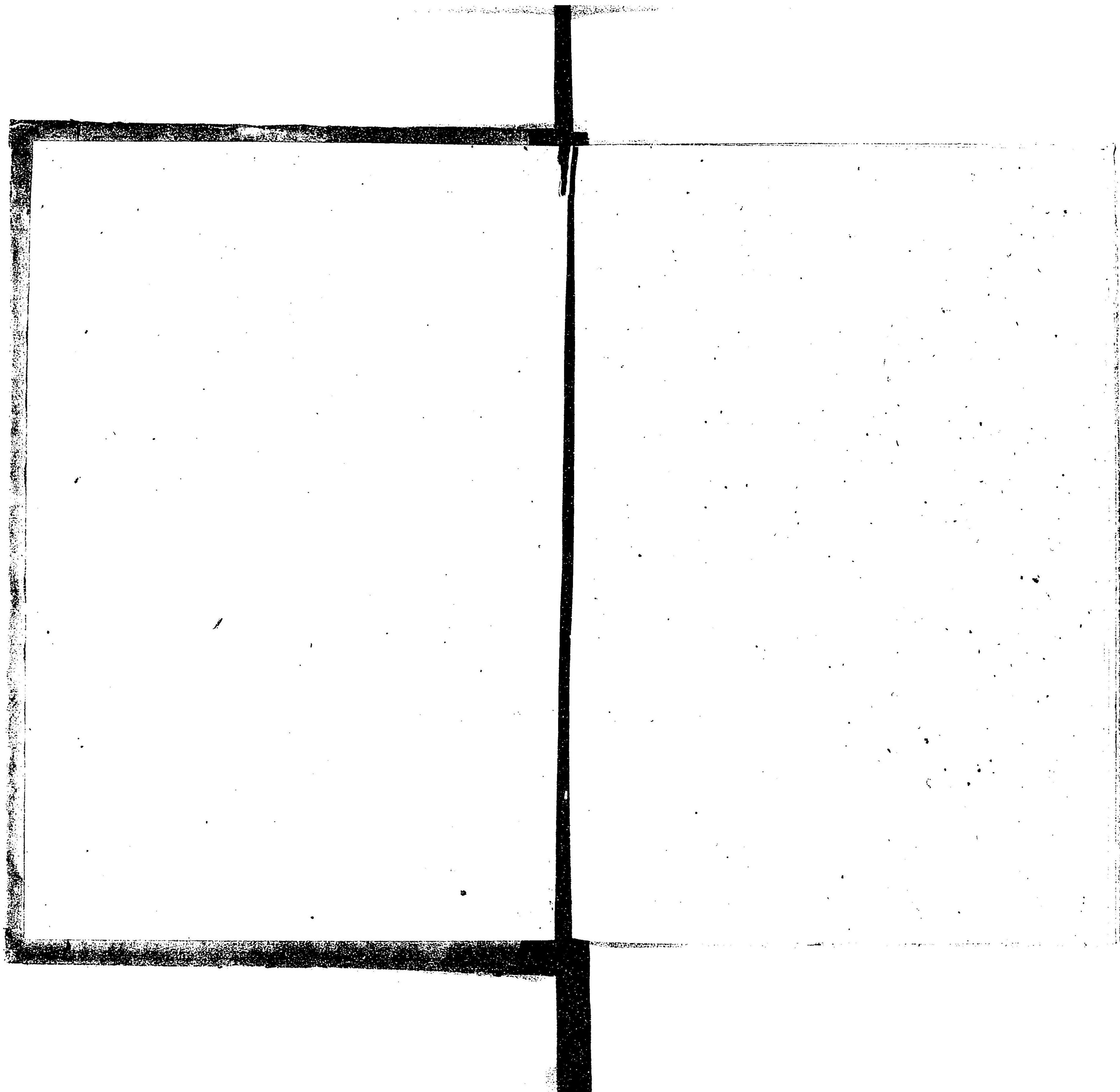
日々ノ晴雨又ハ地震時變ヲ考ル天文第一ノ書也

うら あいはやのんがゑ

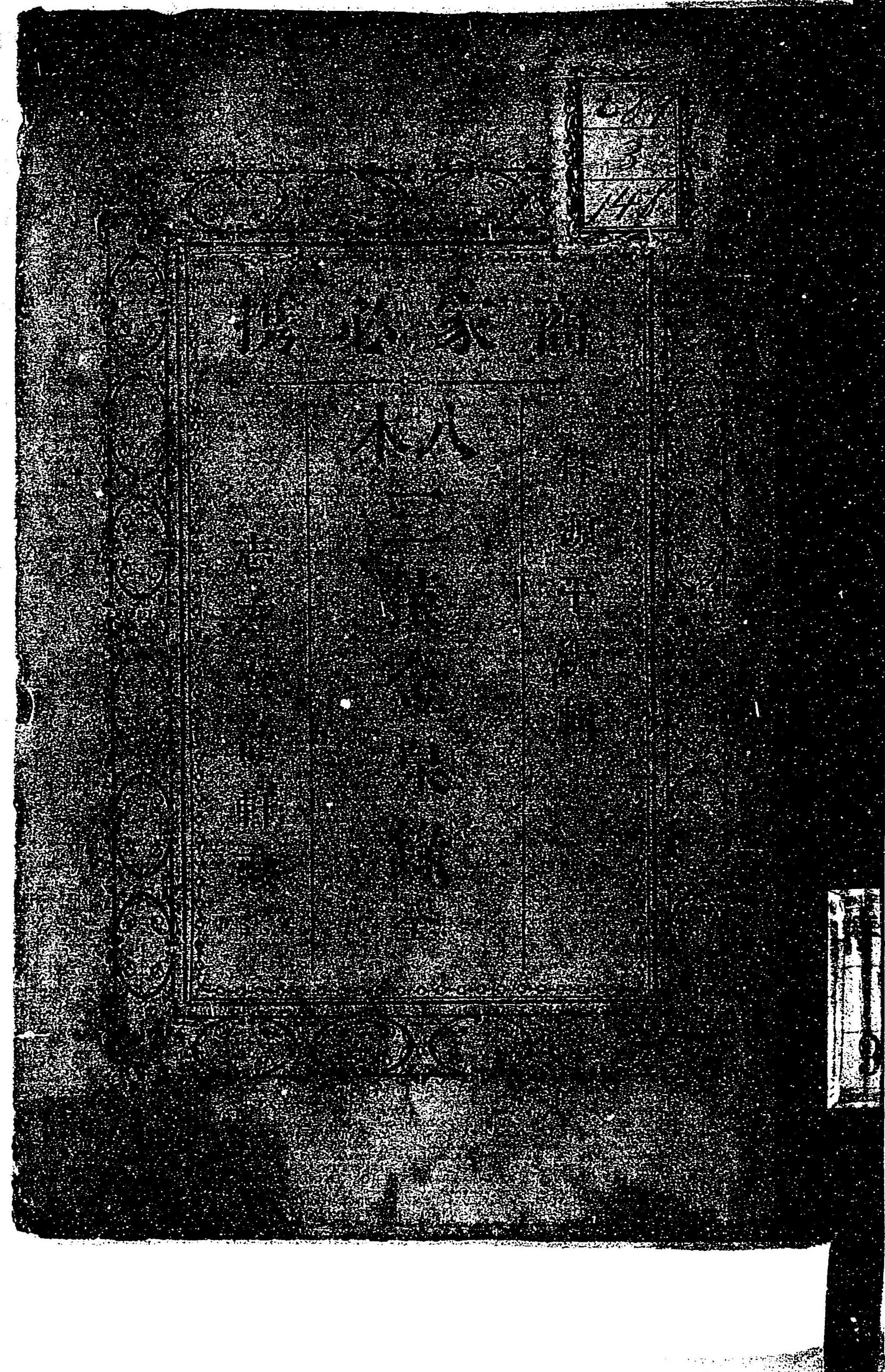
卜筮早考 小本全壹册 正價八錢 郵稅六錢

ゆめうらないはやかんがゑ

占夢早考 繪入小本全壹册 正價七錢 郵稅四錢



4
5



044051-000-6

特64-965

八木三猿金泉録

随雲軒登龍/述

M18

BDM-0175

